

成田宮農経済センターだより

令和5年11月

TEL: 0465-38-0131



西湘きんじろう

令和5年産米の追加集荷の実施について

集荷日

令和5年12月5日(火)

集荷場所および搬入時間 JAかながわ西湘 成田総合選果場 午後1時30分～3時

集荷対象品種

学校給食対象品種

(キヌヒカリ・はるみ・さとじまん・てんこもり・コシヒカリ)

出荷を希望される方は令和5年11月24日(金)までに最寄りの支店までご連絡ください。なお、契約の関係で5年産米の集荷は今回が最終となります。契約をしていない方も出荷できますが、ご記入いただく書類があります。また、インボイス制度の都合上出荷は「組合員」名義でお願いいたします。

<注意>

「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。(前日は24時間前)

「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

△△店舗により農薬の在庫状況が異なりますので、記載の農薬を購入される場合は購入先の店舗に事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。△△

【温州みかん】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

仕上げ摘果

加工ミカンを無くすために、樹上選果を継続してください。

施肥

 11月上旬

○秋肥 特選みかん配合 655 120kg/10a

施肥後、軽く中耕しましょう。ただし、着色が著しく遅れている樹木は、窒素の影響により着色不良の原因となりますので、施肥量を減らしたり、施肥時期を遅らせて、着色促進に影響が無いようにしましょう。

病虫害防除 ※**網掛け**の農薬につきましては医薬用外劇物となりますので購入時印鑑が必要となります。

10月下旬～11月上旬

○ミカンハダニ オマイト水和剤 750倍 収穫7日前 2回 133g / 水100㍓

* 秋のミカンハダニは、果実の着色不良の原因となります。散布ムラの無いように防除しましょう。

防除を徹底し、ハダニを貯蔵庫内に持ち込まないようにしましょう。

11月中旬 貯蔵病害に注意しましょう。

貯蔵病害

- 青かび病
- 緑かび病
- 軸腐病

ベフトップジンフロアブル(劇) 1,500倍 収穫7日前 3回 66ml / 水100㍓
又は、トップジンM水和剤 2,000倍 収穫前日 5回 50g / 水100㍓

※降雨が多い場合は、再度散布をしましょう。

温州みかんと中晩柑では農薬の使用 방법에違いがあります。ラベルをよく確認しましょう。

その他

自園地にて発生が見られたら重点的に防除をお願い致します。

カメムシの被害が多いと果実落果も予想されますのでご注意ください。

カメムシ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日 3回以内 50g/水100㍓ 又は
ロディー乳剤(劇) 2,000倍 収穫7日前まで 4回以内 50ml/水100㍓

※ 収穫時期を迎えている品種については散布日数にご注意ください。

収穫

大津四号は完全着色、青島温州は8分着色以上の果実から2～3回に分けて区分収穫しましょう。

また、病虫害果や傷果の園内廃棄は鳥獣被害を助長します。園外廃棄に努めましょう。

【キウイフルーツ】

病虫害防除 11月下旬～12月中旬（収穫後直ちに）

○かいよう病 ICボルドー66D 50倍 2kg / 水 100ℓ

土壌改良 11月～2月(収穫後)

○苦土石灰 100kg～200kg / 10aを施用（土壌のpHを調整するため）

収 穫

11月上旬中旬以降の強い霜が降りる前に収穫・選果しましょう。収穫は果実温の高い時は避けましょう。収穫時は傷や打撲が生じないように丁寧に扱い、収穫した果実は、直射日光に当たらないようにしましょう。コンテナ等に少しでも軟化している果実が混入すると、軟化果の発生につながるため、混入しないようにしましょう。果実温を上げないよう選別後は速やかに低温庫に搬入します。

【う め】

冬季剪定

11月～12月中旬に縮間伐を実施しましょう。剪定は骨格枝作りを重視し、主枝の配置や内向枝・平行枝等の切除を行います。蕾を傷めないために年内にノコギリ剪定（太枝の処理）を終了させます。

灰星病対策

灰星病の罹病枝がある場合は冬季剪定時に必ず剪除し、園外廃棄しましょう。

*灰星病の罹病枝がわからない方は、最寄りの営農経済センターにご確認ください。

施 肥

○梅配合 120kg / 10a 10月に施肥していない園は直ちに行いましょう。

病虫害防除 11月上旬

○カイガラムシ類 アタックオイル 50倍 2,000ml / 水 100ℓ

11月中旬以降は、花芽を傷めやすいので散布をしないで下さい。

カイガラムシ類は梅の場合、防除適期が収穫時期と重なり防除が難しい害虫です。

カイガラムシ類が多発している園では、この時期の防除を実施してください。（重要）

【水 稻】

スクミリンゴガイ対策

管内でのスクミリンゴガイ（別名：ジャンボタニシ）の発生地域が徐々に拡大しています。発生拡大を阻止するためにも、水田では耕耘（速度はゆっくり、ロータリー回転は速く）を行い、貝を傷つけ越冬させないようにしましょう。また、水路や排水溝なども越冬場所となるので、防除、清掃を必ず行いましょう。

冬季にできる水田の除草管理 雑草防除

一般には田植えから7月末頃に除草剤を使って除草を行いますが、多年生雑草の塊茎や根茎は種子より低温や乾燥に弱いことから、冬季の耕耘によって除草効果が期待できます。また、収穫2～3週間後の除草剤の散布は効果的です。

水田刈跡 雑草生育期薬剤 ラウンドアップマックスロード

○一年生雑草 200～500ml / 水 50～100ℓ 1回

○多年生雑草 500～1,000 ml / 水 50～100ℓ 1回

【か き】

施 肥

○礼肥 柿配合 867 50kg / 10a

苦土石灰 100kg / 10a

柿配合については、9月、10月に礼肥を行った方は省略し、行っていない方は施肥しましょう。

樹勢回復と翌年の花芽の充実、着蕾の促進のため、施肥します。遅くなると肥料の吸収がされにくくなるので、収穫を始めた頃を目安に施肥しましょう。

【野菜】

タマネギの定植

9月には種したタマネギは、早生種は11月上旬、中晩生種は中下旬が定植時期となります（育苗日からおおよそ55日）。定植時の苗は草丈が20cm程度、莖径が6mmくらいの大きさが適切で、これより大きいと春にトウ立ちする危険性があり、また分球する原因ともなります。

小苗定植では初期生育の不良や霜柱により倒れる恐れがあります。

植え付けに際しては、基部の白いところが少し出るくらいとし、深植えに注意しましょう。

春キャベツ（3～4月収穫）の定植

秋まきキャベツは、本葉7～8枚が定植の目安です。大苗の方が小苗より定植後の生育がすぐれます。

まだ苗が小さい場合は、育苗床にトンネルをかけるなどして生育を進めましょう。

栽植密度は、うね幅60cm、株間40cmが標準です。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

☆令和5年産米県域共同計算にかかる経費目標額について（ご案内）

（単位：円／60kg(税込)）

米穀生産者の方への共同計算の経費の明示は、米穀出荷契約に関する決めごとになっているため掲載いたします。

令和5年産米共同計算の経費につきましては、次のような目標を設定し、経費削減に努めますので、生産者の皆様におかれましては、趣旨をご理解のうえ、JAへの出荷をお願いいたします。なお、需給環境の急激な変化等により経費目標額を超えた場合は、その理由を説明いたします。

（問い合わせ先）

JA かながわ西湘 営農指導課

TEL：0465-46-6950

全農神奈川本部 農産部 農産販売課

TEL：0463-53-1570

区分	内容		金額	
支出	流通・保管等に係わる経費		1004	
		概算金金利等	52	
		保管料・入在庫料等	530	
		保険料・補償料	3	
		支払運賃	348	
		安全安心等検査費用		
		集約保管等経費	71	
		その他 流通・保管等に係わる経費		
	事故処理経費			
		手数料 (全農分)	定額手数料 機能別手数料	198
	生産・集荷・販売等に係る経費			
		JAへの支出経費		
		広告宣伝費等経費	4	
	その他 生産・集荷・販売等に係る経費			
需給調整経費				
県産米推進協議会等経費				
	監査委員会費用	1		
	その他			
	合計		1207	

注) 上記の数字は県域共同計算における経費であり、この他にJA段階での経費があります。

JAねっとショップのご案内

令和5年4月より予約回覧注文書のねっとショップへの掲載が始まり、予約注文が可能となりました。

「JAねっとショップ」とは…

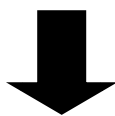
組合員様向けのねっとショップサービスであり、スマートフォンやパソコンから肥料・農薬・食品等を注文することができます。会員登録及び利用料は無料です。

～ねっとショップのメリット～

1. 24時間いつでもどこでも注文可能
2. 商品によっては値引の適用
3. 過去の購入履歴が閲覧可能

ぜひねっとショップをご活用ください。

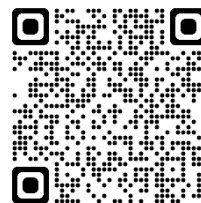
新規会員登録はこちらから



URL

<https://jac-toru.zennoh.or.jp/>

QRコード



～土壌診断しませんか？～

作物を正常に生育させるためには、土壌中の養分状態を作物の要求する量に調節するとともに、他の成分とのバランスをとらなければなりません。そのためには、土壌の不足する養分と過剰な養分を把握する「**土壌診断**」が必要です。

より良い作物を栽培するために当JAでは土壌診断を推奨しています。

料金：1 サンプルにつき 632 円(税込)

結果通知：サンプル提出後約 1 か月後(混雑状況により遅くなる場合もあります)

土壌診断の適正な実施時期は基本的に作付前(施肥前)または、収穫後になります。

サンプル袋は成田営農経済センターにてお渡しします。

ご不明な点等は成田営農経済センターまでお問合せください。

Tel：38-0131